

司書雑感

本学図書館の对外協力 こんなところで資料が使われています

奥 正敬

最近、「世界・ふしぎ発見!」(TBS系列)というテレビ番組で本学図書館が所蔵するアイルランド人作家ジョナサン・スウィフトの貴重書『ガリバー旅行記』が使われました。本学図書館のこうした報道関係への資料提供は多いことではありません。業務的には「对外協力」の写真提供放映協力と位置付けて、これまでに「その時歴史が動いた」(NHK)や既に放送を終了した「知ってるつもり?!」(NTV系列)などの有名な番組にも資料を貸出し、歴史の証明として使われてきました。

この对外協力には他にも貴重資料の写真掲載協力があり、高校までの社会科や日本史の教科書などへの資料提供を行っています。例えば、江戸時代に長崎の出島に滞在したオランダ東インド会社の医師フランツ・フォン・シーボルトによる『日本』に描かれた「踏絵の図」は、毎年多くの会社が刊行する検定教科書に使われており、学生の皆さんの中にもこの図を覚えておられる方が多いのではないのでしょうか。この写真掲載協力は教科書だけに留まらず、一般の出版物に対しても同様の協力を行っています。特徴的なものとしては、企業が作る自社史やアメリカ国内で刊行される日系新聞なども含まれています。

また、本学図書館の貴重書は「出展協力」として、全国各地の博物館で開かれる展示会にも協力しています。今年は、安土桃山時代に来日していたイェズ会宣教師ルイス・フロイスの『自筆書簡』や同種の布教報告が岐阜県立博物館で展示されました。

これらの对外協力は、生涯学習の支援策として所蔵資料を一般市民の方々に使っていただく「市民利用制度」と共に、社会に

貢献する重要な仕事になっています。生涯教育を推進する文部科学省や関係省庁は、大学図書館の一般の人たちへの開放を奨励しており、この意味からすると資料を広く社会で活用する对外協力は大学図書館の大きな仕事といえます。

こうした对外協力で活用される資料は、貴重な文献が求められることが多く、特に歴史的に価値が高く現存している部数が少ない稀覯書に集中します。本学図書館には、森田嘉一現理事長の図書館長時代に作られた多くの貴重書コレクションがあり、ホームページでも特徴的なものとして発信しています。このホームページやこれまでに本学図書館が刊行してきたコレクション目録で所蔵を知って、放送局、教科書会社、博物館などから提供依頼が寄せられてきます。

| | 2000年度 | 2001年度 | 2002年度 |
|-------|--------|--------|--------|
| 写真掲載 | 12 | 23 | 20 |
| 展示会出展 | 0 | 1 | 1 |
| テレビ放映 | 2 | 4 | 2 |
| 合計 | 14 | 28 | 23 |

(単位 件)

上記の表は過去3年間の協力状況ですが、本学図書館は蔵書構成の特徴を活かした对外協力が社会の皆様との大きな接点であると考えており、本学図書館の所蔵であると明記することを前提に、可能な限り提供依頼に沿える努力をしています。

学生の皆さんも、テレビや書物、さらには各地で開かれる展示会などで本学図書館の資料に出会われましたら、このような意図のもとに本学図書館が对外協力を行っているものをご理解をいただき、本学の学生としての誇りを持ってこの事業を応援していただきたいと思います。

おく まさよし

(司書・事務長兼管理運営課長)